

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 2 部門第 1 区分
【発行日】平成 16 年 11 月 25 日 (2004.11.25)

【公表番号】特表 2000-505352 (P2000-505352A)
【公表日】平成 12 年 5 月 9 日 (2000.5.9)
【出願番号】特願 平 9-529789
【国際特許分類第 7 版】

B 0 5 D 1/36

B 0 5 D 7/14

【 F I 】

B 0 5 D 1/36 B

B 0 5 D 7/14 L

【手続補正書】
【提出日】平成 16 年 2 月 5 日 (2004.2.5)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】補正の内容のとおり
【補正方法】変更
【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成16年 2 月 5 日

特許庁長官 今 井 康 夫 殿



1. 事件の表示

平成9年特許願第529789号

2. 補正をする者

住 所 アメリカ合衆国デラウェア州 19898. ウイルミントン.
マーケットストリート1007

名 称 イー・アイ・デュボン・ドウ・ヌムール・アンド・
カンパニー

3. 代 理 人

住 所 東京都千代田区麹町一丁目10番地(麹町広洋ビル)

電 話 (3261)2022

氏 名 (9173) 高 木 千 嘉



(外1名)

4. 補正対象書類名

明 細 書、請 求 の 範 囲

5. 補正対象項目名

明 細 書、請 求 の 範 囲

方 式 登 録



6. 補正の内容

- 1) 請求の範囲を別紙のとおり補正します。
- 2) 明細書第5頁下から5行の「ラッカーコーティングが、」を「ベースラッカーが、」と補正します。
- 3) 同第16頁第13行の「問題である)に」を「問題である)を用いて、クリヤラッカーに」補正します。
- 4) 同第19頁第8～12行の「陰極電着に……乾燥した。」を次のとおり補正します。

「陰極電着によって下塗りし、そして厚さが 30 μ m の層で下塗りされている、慣用的な仕方で燐酸塩処理された自動車の車体パネルに噴霧することにより、下記の水性ベースラッカー（黒色）を、乾燥時の層厚 20 μ m を有するように施した。施用の後、短時間にわたってコーティングを蒸発させ、次いで 180℃で 10 分間予備乾燥した。」

以 上

請求の範囲

1. 加熱乾燥された第1の電着ラッカー層の付与された基材上に多層コートラッカー塗装物をつくる方法であって、一つまたはそれ以上のポリウレタン樹脂を含有する、水性の色彩付与性および（または）効果付与性の第1のベースラッカー剤からなる、乾燥時の層の厚さ $10\mu\text{m}\sim 30\mu\text{m}$ に相当する第2のコーティング層を上記の第1の電着ラッカー層に施し、そこに水性であり、色彩付与性および（または）効果付与性の第2のベースラッカー剤からなる、乾燥時の層の厚さがより薄く $7\sim 15\mu\text{m}$ に相当する第3のコーティング層をウェットオンウェットで施しそしてクリアラッカーコーティング剤からなる第4のコーティング層を予め加熱乾燥せずに第3のコーティング層に施し、第2、第3および第4のコーティング層と一緒に加熱乾燥し、この場合、第1および第2の水性ベースラッカー剤は同一または異なるポリウレタン樹脂を含有し、第1の水性ベースラッカー剤は特定の水性ベースラッカー剤の全重量に関して、第2のベースラッカー剤よりポリウレタン樹脂の濃度がより大きく、またこの第1のベースラッカー剤の固形樹脂の含有率は、第2のベースラッカー剤中の固形樹脂の重量の絶対値の20%以下までしか差がないことを特徴とする上記方法。
2. 第1の水性ベースラッカー剤が、第2のベースラッカー剤にポリウレタン樹脂を混合することによりつくられていることを特徴とする、請求項1に記載の方法。
3. 第1の水性ベースラッカー剤中のポリウレタン樹脂の過剰の程度が第2のベースラッカー剤中の固形樹脂の重量の絶対値の5～50%であることを特徴とする請求項1または2記載の方法。
4. 第1のベースラッカー剤が、第2のベースラッカー剤中の顔料の体積

濃度の絶対値からの差が30%以下である顔料の体積濃度を有することを特徴とする請求項1～3のいずれか一項に記載の方法。

5. 第2のベースラッカー剤がポリウレタン樹脂を過剰に含有することは除いて、第1および第2のベースラッカー剤が含有する固形樹脂を形づくる樹脂の組成が定性的および定量的に同じであることを特徴とする、請求項1～4のいずれか一項に記載の方法。
6. ベースラッカー剤の双方で同一の顔料処方が行われるかあるいは二つのベースラッカー剤で顔料処方が平均的に類似する密度を有することを特徴とする、請求項1～5のいずれか一項に記載の方法。
7. 固形物含有率に関しては、第2のベースラッカー剤の顔料含有率が第1のベースラッカー剤の顔料含有率より大きいことを特徴とする、請求項1～6のいずれか一項に記載の方法。
8. 自動車またはその部品のラッカー塗装のために用いられることを特徴とする、請求項1～7のいずれか一項に記載の方法。